

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：22702

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K19439

研究課題名(和文)労働時間や職場風土と従業員の健康・生産性との関連：職場外要因を含めた複合的検討

研究課題名(英文)The relationship between working hours and workplace climate and employee health and productivity: a combined study including factors outside the workplace

研究代表者

津野 香奈美 (Tsunō, Kanami)

神奈川県立保健福祉大学・ヘルスイノベーション研究科・准教授

研究者番号：30713309

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2つの前向きコホート研究、1つの生態学的研究を実施したほか、長時間労働とうつ病に関する国際保健機関(WHO)、国際労働機関(ILO)との国際共同プロジェクトに参画し、他国の研究者らと長時間労働とうつ病との関連を検証するシステムティックレビューを実施した。その結果、労働時間とうつ病との関連は強固なエビデンスがあるとは言えないこと、職場の非尊重的態度が精神健康だけでなく身体健康とも関連していること、職場内外のサポート資源は非尊重的態度を経験した時に精神健康を守る十分な緩衝効果があるとは認められないこと、組織風土は職場の非尊重的態度の発生率と関連していること等が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果は、長らく結論が一致していなかった長時間労働と精神健康との関連について学術的に結論を出すものであり、社会的なインパクトは大きいと考えられる。また、職場の非尊重的態度や組織風土が労働者の精神健康だけでなく身体健康とも関連すること、しかし個人や職場資源が例え多くても、非尊重的態度を経験した際に精神健康の不調発生を予防するには不十分であることが示されたことにより、職場の非尊重的態度の発生を未然に予防するような対策が重要であること、それには本研究で明らかになった非尊重的態度が発生しにくい組織風土の要素を取り入れることが重要であると示せたことは、社会的にも意義が大きいと思われる。

研究成果の概要(英文)：In addition to conducting two prospective cohort studies and one ecological study, I participated in an international collaborative project with the World Health Organization (WHO) and the International Labor Organization (ILO) and conducted a systematic review with researchers from other countries to examine the association between long working hours and depression. The results showed that there is no robust evidence of an association between working hours and depression, that workplace mistreatment, including harassment and incivility, is associated not only with mental health but also with physical health, that support resources inside and outside the workplace are not found to have a sufficient buffering effect to protect mental health when workplace mistreatment is experienced, and that organizational climate is associated with the incidence of workplace mistreatment.

研究分野：社会疫学、公衆衛生学、産業保健学

キーワード：労働時間 ハラスメント 組織風土

1. 研究開始当初の背景

我が国では「過労死」という言葉があるように、以前より長時間労働が問題となっている。長時間労働は精神疾患と関連すると報告されているが、研究によって一致した結果は得られていない。例えば我が国においても、横断研究において時間外労働時間と精神疾患罹患率との関連が報告されている一方¹、女性のみで有意な関連が見られたという報告もある²。結論が一致していない理由として、2つの要因が考えられる。1つはまず、「労働時間を自分で調整できるか」という視点である。研究代表者らの研究では、裁量権が高い場合、長時間労働をしても心理的ストレス反応を発症しにくいことを明らかにしてきた³。2つ目の要因として考えられるのは、ジェンダー等の労働者側の特性である。研究代表者らも最近、一般企業の労働者を対象に、特に女性において長時間労働を行った際に抑うつ度が高くなることを明らかにした⁴。このことから、日本人女性においては男性よりも家事・育児負担が高いことが健康度に影響している可能性がある。労働者の精神・身体的不調の防止には職場外の要因についても同時に検討する必要があることが示唆されたことから、本研究も職場内・職場外要因による健康・生産性への複合的な影響を解明することを目的として行うこととした。

労働時間に加えて、従業員の健康に大きな影響を与える職場要因が、職場の人間関係である。その中でも近年、職場におけるハラスメントやインシビリティ(無礼な態度)等の非尊重的態度が従業員の精神的健康に影響を及ぼすことが明らかになりつつある。非尊重的態度とは、他人に対する思いやりのない失礼な態度、と定義されている⁵。悪意のない言動を含むことが特徴的で、どの職場でもどの職位でも発生しうる事象と考えられている。

近年、職場に非尊重的態度が存在することが労働者の健康に大きな影響を与える可能性があることが注目されている。しかし、職場の非尊重的態度がどのような職場環境、状況において発生しやすいのか、またハラスメントやインシビリティがどのような身体的健康指標に影響を与えるのか、そして労働生産性に影響を与えるのかについて前向きコホート研究において検討した研究は、世界的にもまだなかった。特にわが国では研究代表者によってこの事象を測定できる尺度が開発されたばかりであり⁶、このテーマに関する研究はまだほとんどない状況であった。

2. 研究の目的

本研究は、職場内要因として労働時間とハラスメント/インシビリティ、職場外要因としてジェンダー、家事・育児負担、そして世帯収入等の社会経済的状況に着目し、これらの要因と、精神的健康、身体的健康、および労働生産性との関連を複合的に検討する1年間の前向きコホート研究を実施することにより、我が国の労働者における精神的及び身体的不調の未然防止と、職場の安全構築に貢献することを目的として実施した。

3. 研究の方法

本研究では、2つの前向きコホート研究、1つの生態学的研究を実施した。また、長時間労働に関する国際保健機関(WHO)、国際労働機関(ILO)との国際共同プロジェクトに参画し、他国の研究者らと長時間労働とうつ病との関連を検証するシステムティックレビューを実施した。その他、過去に実施した、全国の住民基本台帳から2段階で無作為抽出した労働者代表サンプルデータや地方自治体職員を対象に実施した前向きコホート研究データ等を用いて、本研究課題に関連する解析を行った。

1つ目の前向きコホート研究は、関西地方の公立大学法人に勤務する職員約3,000名を対象に実施した。初回調査では1,482名から回答が得られ(回収率:55.7%)、その1年後の追跡調査では881名から回答が得られた(追跡率:59.4%)。また、質問紙調査に加え定期健康診断に関するデータ提供を受け、突合したデータセットを作成した。

2020年度からは新型コロナウイルス感染症の流行により、現地調査が困難となったため、2つ目の前向きコホート研究はインターネット調査により実施した。全国28,000名の一般住民(労働者約16,000名)を対象に初回調査を行い、1年後に追跡調査を実施した。

生態学的研究としては、企業68社を対象に、職場のハラスメント防止対策の実施状況や組織風土とハラスメント発生率との関連について調査を行い、企業ごとの結果を解析した。

4. 研究成果

(1) 長時間労働とうつ病との関連に関するシステムティックレビュー及びメタアナリシス

本研究では、「仕事に関連した疾病と傷害の負担に関するWHO/ILO共同推計(WHO/ILO Joint Estimates)」策定にあたり、長時間労働への曝露に起因するうつ病による死亡者数および障害調整生存年数を推定するためのパラメータについて、系統的レビューとメタ分析を実施した。

WHO国際臨床試験登録プラットフォーム、Medline、PubMed、EMBASE、Web of Science、CISDOC、

PsycInfo などの電子学術データベースを検索し、出版済みおよび未発表の研究から関連する記録を探した。また、灰色文献データベース、インターネット検索エンジン、組織のウェブサイト、過去のシステマティックレビューの文献リストを手作業で検索した。研究の評価と統合に関しては、少なくとも2名の著者が独立して、第一段階でタイトルと抄録を適格基準に照らしてスクリーニングし、第二段階で適格と思われる記録の全文をスクリーニングし、その後、適格な研究からデータを抽出した。論文上で欠落しているデータは、論文著者に提供を依頼した。ランダム効果は、メタアナリシスによりオッズ比を算出した。また、2人以上の著者が、このプロジェクトに適応したナビゲーションガイドと GRADE ツールおよびアプローチを用いて、バイアスのリスク、エビデンスの質および強さを評価した。

結果として、WHOの3つの地域（アメリカ、ヨーロッパ、西太平洋）の32カ国の合計109,906人（女性51,324人）からなる22の研究（すべてコホート研究）が、組み入れ基準を満たした。曝露はすべての研究で自己申告により測定され、アウトカムは臨床診断面接（4研究）、うつ病の診断と治療に関する面接質問（3研究）、有効な自己記入式評価尺度（15研究）により評価されていた。アウトカムは22研究すべてでうつ病の発症と定義され、21研究で初回うつ病の発症、1研究でうつ病の再発とされ、うつ病の有病率やうつ病による死亡率に関する研究は確認されなかった。

結果として、週35~40時間勤務と比較して、週41~48時間勤務のうつ病発症（または発症率）に対する効果は明らかであるとは言えなかった（プールオッズ比 [OR] : 1.05、95%信頼区間 [CI] 0.86~1.29、8研究、参加者49,392名）、49~54時間/週 (OR : 1.06、95%CI : 0.93~1.21、8研究、49,392名)、55時間/週以上 (OR : 1.08、95%CI : 0.94~1.24、17研究、91,142名)。サブグループ解析では、WHOの地域、性別、年齢層、社会経済的地位による統計的に有意な差の根拠は見つからなかった。長時間労働への曝露に起因するうつ病の負担の推定値を作成することは、現時点ではエビデンスに基づかないと思われる。なお本発表内容のプロトコル及び最終成果は、いずれも Environmental International に掲載された^{7,8}。

(2) 職場における非尊重的な態度と精神健康や生産性との関連

ハラスメント被害・目撃と精神・身体疾患、疾病休暇、労働生産性との関連：全国代表サンプル

本研究は、二段階無作為抽出法によって抽出された20~60歳の日本在住の全国代表サンプル5,000名を用いて、パワハラ被害・目撃の両方と、精神疾患、慢性身体疾患などの様々な健康アウトカム、および疾病休暇、仕事の生産性、職務満足度などの組織アウトカムとの関連性を調査することを目的として実施した。調査時に働いていなかった回答者、および本研究で使用した変数に欠損値があった回答者を除外した後、1,503名の回答者のデータを分析に使用した。

その結果、パワハラ被害・目撃両方もが、ストレス反応、身体愁訴、主観的健康の不良、精神疾患、仕事への低満足度と有意に関連していた。パワハラの被害は、呼吸器疾患、7日以上の疾病休暇、労働生産性の低さとも関連していた。さらに、被害者は非被害者に比べ、病気欠勤日数が4.5日多く、労働生産性が11.2%低かったことがわかった。本発表は、職場の非尊重的態度が精神健康だけでなく身体健康とも関連することを示唆するものであり、対策の必要性和問題の解明を訴えることに繋がる基礎的資料となるものである。なお本発表内容は、PLoS One に掲載された⁹。

コロナ禍における非尊重的態度のリスクファクターの解明と精神健康との関連の解明

全国28,000名の一般住民（労働者約16,000名）を対象に実施したインターネット縦断調査の初回調査データを用いて、コロナ禍においてどのような労働者がハラスメントを受けているのか、そしてハラスメントと精神的健康との関連を明らかにするかを検討した⁹。

結果として、コロナ禍である2020年4月~9月の間に、回答者の14.9%が職場でいじめ・ハラスメントを経験していた。回答者のうち重症精神障害を持っていたのは8.8%、自殺念慮は11.5%であった。職場でいじめ・ハラスメントを多く受けるリスクが高かったのは男性、若者、世帯年収の低い群、会社役員・正規職員等であった。また、職場のいじめ・ハラスメント曝露群では、そうでない群と比べて、重症精神障害リスクが2.8倍、自殺念慮リスクが2.1倍高かった（いずれも性・年齢・学歴・配偶者の有無・雇用形態・業種・事業所規模・仕事の特徴・うつ病既往歴調整後の結果）。加えて、コロナ禍において、在宅勤務の開始がハラスメントリスクを下げる方向性と関連していることがわかった。ただ逆に在宅勤務を続けることは重症精神障害リスク及び自殺念慮リスクを高める方向性と関連があった。このことから、在宅勤務時に職場のサポートを減らさない取り組みが必要とされることが示唆された。なお本発表内容は BMJ Open に掲載された¹⁰。

非尊重的態度と精神健康との関連における職場内外の資源の緩衝効果

本研究では、地方公務員 2,036 名を対象に実施した 1 年の前向きコホート研究のデータを用い、上司のサポートや同僚のサポートなどの組織的資源、ストレスへのコーピングスタイルやレジリエンスなどの個人的資源が、いじめと心理的苦痛の関連においてどのような緩衝効果を持つのかを縦断的に検討した。

階層的重回帰分析の結果、職場いじめは、個人特性や職業特性を調整しても、その後の心理的ストレス反応の増加と関連していたが、ベースライン時の心理的ストレス反応を調整すると、その関連性は消失した。ベースライン時の心理的ストレス反応を調整した後、レジリエンスの高さ、助けを求めること、見方を変えること、回避の低さは、いじめられた時の心理的ストレス反応と関連した。一方、職場のソーシャルサポートと家族・友人のサポートは、いじめられた時のその後の心理的ストレス反応の低下とは関連していなかった。一方で、職場のいじめと気分の変化の有意な交互作用が、将来の心理的ストレス反応に対して観察された。

結論として、ベースライン時の心理的ストレス反応がその後の心理的ストレス反応の最も強い予測因子であったため、いじめと精神的健康との縦断的な関連において、個人内外/職場内外の資源の緩衝効果は限定的であった。このことから、職場の非尊重的態度の発生そのものを防止することが重要であることが示唆されたと言える。なお本発表内容は BMC Psychology に掲載された¹¹。

(3) 職場のシビリティ（礼節）を測定する尺度の開発

インシビリティ測定尺度は研究代表者によって開発されていたものの、反対の概念であるシビリティ（礼節）を測定する尺度は日本にはまだなかった。そこで本研究は、職場における礼節規範を測定する 8 項目の CREW シビリティ尺度日本語版の信頼性と妥当性を検討し、シビリティ得点を様々な職業間で比較することを目的とした。

本研究では 2 つのデータセットを用いた。1 つは社会福祉法人の全職員（N=658）を対象にした 1 年間の前向きコホート研究であり、もう 1 つはとある市の地方公務員（N=3,242）を対象に実施した横断研究である。構造的妥当性は確認的因子分析（CFA）により検証し、構成妥当性は、シビリティと他の変数とのピアソン相関によって評価した。内部整合性は、Cronbach's alpha で評価し、1 年後の再検査信頼性はクラス内相関係数（ICC）で評価した。

CFA の結果、モデルの適合性は許容できるレベルであった（Tucker Lewis index [TLI] = 0.929; comparative fit index [CFI] = 0.949; Standardized Root Mean Squared Error [SRMR] = 0.034）。CREW シビリティ尺度の得点は、上司のサポート、同僚のサポート、ワーク・エンゲイジメントと有意な正の相関があり、インシビリティ、職場のいじめ、離職意思、心理的ストレス反応とは有意な負の相関があった。Cronbach の係数は 0.93、ICC は 0.52 であった。若手、高学歴、管理職、保育士は、職場の礼節規範を高いと評価しており、高卒と高卒でない人、パートタイマー、看護師、准看護師、介護福祉士は、職場の礼節規範を低いと回答する傾向にあった。なお本発表内容は Journal of Occupational Health に掲載された¹²。

(4) 企業の組織風土と職場の非尊重的態度の発生率との関連：生態学的研究

日本国内の某グループ会社計 68 社（従業員数計約 20,000 名）を対象に調査を行い、企業の組織風土と職場の非尊重的態度の発生率との関連について検討した。その結果、自社でハラスメント対策として実態把握等のアンケート調査、ポスター掲示や研修の実施、グループ全体の統括相談窓口の設置、コンプライアンス相談窓口の設置を実施していると 7 割以上の従業員が認識している企業では、認知度が低い企業と比べてパワハラ・セクハラが発生割合が低かった。一方、トップのメッセージ発信、就業規則などによるルール化、自社または中核会社の相談窓口の設置に関しては、従業員認知度によるパワハラ発生割合の差は確認できなかった。組織風土に関しては、シビリティが高い、心理的安全性がある、役割が明確であると 8 割以上の従業員が認識している企業では、パワハラ・セクハラが発生割合が低かった。

結論として、各ハラスメント防止対策を実施していると多くの従業員が認識している企業では、ハラスメント発生割合も低い傾向にあった。心理的に安全である・役割が明確であると多くの従業員が回答した企業ではハラスメント発生割合が低かったことから、ハラスメント防止には組織風土に着目した対策も有効である可能性が示唆されたと言える。なお本発表内容は日本産業衛生学雑誌に掲載された¹³。

< 引用文献 >

1. Nishikitani, M., Nakao, M., Karita, K., Nomura, K. & Yano, E. Influence of overtime work, sleep duration, and perceived job characteristics on the physical and mental status of software engineers. *Ind. Health* **43**, 623-629 (2005).

2. Ezoe, S. & Morimoto, K. Behavioral lifestyle and mental health status of Japanese factory workers. *Prev. Med.* **23**, 98-105 (1994).
3. Hino, A. *et al.* Buffering effects of job resources on the association of overtime work hours with psychological distress in Japanese white-collar workers. *Int. Arch. Occup. Environ. Health* **88**, 631-640 (2015).
4. Tsuno, K. *et al.* Long working hours and depressive symptoms: moderating effects of gender, socioeconomic status, and job resources. *Int. Arch. Occup. Environ. Health* **92**, 661-672 (2019).
5. Andersson, L. M. & Pearson, C. M. Tit for Tat? The Spiraling Effect of Incivility in the Workplace. *Acad. Manage. Rev.* **24**, 452-471 (1999).
6. Tsuno, K. *et al.* Workplace incivility in Japan: Reliability and validity of the Japanese version of the modified Work Incivility Scale. *J. Occup. Health* **59**, 237-246 (2017).
7. Rugulies, R. *et al.* The effect of exposure to long working hours on depression: A systematic review and meta-analysis from the WHO/ILO Joint Estimates of the Work-related Burden of Disease and Injury. *Environ. Int.* **155**, 106629 (2021).
8. Rugulies, R. *et al.* WHO/ILO work-related burden of disease and injury: Protocol for systematic reviews of exposure to long working hours and of the effect of exposure to long working hours on depression. *Environ. Int.* **125**, 515-528 (2019).
9. Tsuno, K. *et al.* Victimization and witnessing of workplace bullying and physician-diagnosed physical and mental health and organizational outcomes: A cross-sectional study. *PLoS One* **17**, e0265863 (2022).
10. Tsuno, K. & Tabuchi, T. Risk factors for workplace bullying, severe psychological distress and suicidal ideation during the COVID-19 pandemic among the general working population in Japan: a large-scale cross-sectional study. *BMJ Open* **12**, e059860 (2022).
11. Tsuno, K. Do personal resilience, coping styles, and social support prevent future psychological distress when experiencing workplace bullying? Evidence from a 1-year prospective study. *BMC Psychol* **10**, 310 (2022).
12. Tsuno, K. *et al.* Assessing workplace civility: Validity and 1-year test-retest reliability of a Japanese version of the CREW Civility Scale. *J. Occup. Health* **64**, e12332 (2022).
13. 津野香奈美, 早原聡子, 木村節子 & 岡田康子. 企業 68 社における職場のハラスメント防止対策の実施状況や組織風土とハラスメントの実態, 対策実施後の従業員や職場の変化. *産業衛生学雑誌* **64**, 367-379 (2022).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 28件／うち国際共著 4件／うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 Hidaka Y., Sasaki N., Imamura K., Tsuno K., Kuroda R., Kawakami N.	4. 巻 198
2. 論文標題 Changes in fears and worries related to COVID-19 during the pandemic among current employees in Japan: a 5-month longitudinal study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Public Health	6. 最初と最後の頁 69～74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.puhe.2021.06.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Rugulies R, Sorensen K, Di Tecco C, Bonafede M, Rondinone BM, Ahn S, Ando E, Ayuso-Mateos JL, Cabello M, Descatha A, Dragano N, Durand-Moreau Q, Eguchi H, Gao J, Godderis L, Kim J, Li J, Madsen IEH, Pachito DV, Sembajwe G, Siegrist J, Tsuno K, Ujita Y, Wang J, Zadow A, Iavicoli S, Pega F	4. 巻 155
2. 論文標題 The effect of exposure to long working hours on depression: A systematic review and meta-analysis from the WHO/ILO Joint Estimates of the Work-related Burden of Disease and Injury	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environment International	6. 最初と最後の頁 106629
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.envint.2021.106629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Imamura Kotaro, Kawakami Norito	4. 巻 7
2. 論文標題 Increased suicidal ideation in the COVID-19 pandemic: an employee cohort in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BJPsych Open	6. 最初と最後の頁 e199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1192/bjo.2021.1035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Asaoka Hiroki, Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Kawakami Norito	4. 巻 255
2. 論文標題 Workplace Bullying and Patient Aggression Related to COVID-19 and its Association with Psychological Distress among Health Care Professionals during the COVID-19 Pandemic in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 283～289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1620/tjem.255.283	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ishimaru Tomohiro, Tsuno Kanami, Hori Ai, Okawara Makoto, Yasuda Yoshino, Fujino Yoshihisa, Tabuchi Takahiro	4. 巻 11
2. 論文標題 Disrupted care during the COVID-19 state of emergency and productivity loss attributed to presenteeism in workers: a nationwide cross-sectional study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e050068 ~ e050068
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2021-050068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Natsu, Imamura Kotaro, Kataoka Mayumi, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Sawada Utako, Asaoka Hiroki, Iida Mako, Kawakami Norito	4. 巻 3
2. 論文標題 COVID-19 measurements at the workplace in various industries and company sizes: a 2-month follow-up cohort study of full-time employees in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environmental and Occupational Health Practice	6. 最初と最後の頁 n/a ~ n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1539/eohp.2020-0017-0A	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津野香奈美	4. 巻 28
2. 論文標題 職場のハラスメントをめぐる国内外の最新の動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産業ストレス研究	6. 最初と最後の頁 385-393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iida Mako, Sasaki Natsu, Imamura Kotaro, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Kawakami Norito	4. 巻 64
2. 論文標題 COVID-19-related workplace bullying and customer harassment among healthcare workers over the time of the COVID-19 outbreak	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Occupational & Environmental Medicine	6. 最初と最後の頁 e300 ~ e305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/JOM.0000000000002511	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 川上憲人	4. 巻 29
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症対策と従業員の健康・パフォーマンス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産業精神保健	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津野香奈美	4. 巻 44
2. 論文標題 職場のハラスメントの経済損失 疾病休業・労働生産性・離職の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産業医学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津野香奈美	4. 巻 19
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症と勤労者のメンタルヘルス：差別、偏見、ストレス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川県立保健福祉大学誌	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsunokanami, Shimazu Akihito, Osatuke Katerine, Shimada Kyoko, Ando Emiko, Inoue Akiomi, Kurioka Sumiko, Kawakami Norito	4. 巻 64
2. 論文標題 Assessing workplace civility: Validity and 1 year test retest reliability of a Japanese version of the CREW Civility Scale	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 e12332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/1348-9585.12332	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Kawakami Norito	4. 巻 62
2. 論文標題 Workplace responses to COVID 19 associated with mental health and work performance of employees in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 e12134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/1348-9585.12134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Kawakami Norito	4. 巻 2
2. 論文標題 Workplace responses to COVID-19 and their association with company size and industry in an early stage of the epidemic in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Environmental and Occupational Health Practice	6. 最初と最後の頁 n/a ~ n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1539/eohp.2020-0007-0A	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YAGINUMA-SAKURAI Kozue, TSUNO Kanami, YOSHIMASU Kouichi, MAEDA Tomohide, SANO Hiroko, GOTO Miki, NAKAI Kunihiko	4. 巻 58
2. 論文標題 Psychological distress and associated factors among Japanese nursery school and kindergarten teachers: a cross-sectional study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Industrial Health	6. 最初と最後の頁 530 ~ 538
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2486/indhealth.2020-0052	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Kawakami Norito	4. 巻 46
2. 論文標題 The deterioration of mental health among healthcare workers during the COVID-19 outbreak: A population-based cohort study of workers in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scandinavian Journal of Work, Environment & Health	6. 最初と最後の頁 639 ~ 644
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5271/sjweh.3922	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakuraya Asuka, Imamura Kotaro, Watanabe Kazuhiro, Asai Yumi, Ando Emiko, Eguchi Hisashi, Nishida Norimitsu, Kobayashi Yuka, Arima Hideaki, Iwanaga Mai, Otsuka Yasumasa, Sasaki Natsu, Inoue Akiomi, Inoue Reiko, Tsuno Kanami, Hino Ayako, Shimazu Akihito, Tsutsumi Akizumi, Kawakami Norito	4. 巻 11
2. 論文標題 What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 528656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.528656	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawakami Norito, Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Imamura Kotaro	4. 巻 8
2. 論文標題 The Effects of Downloading a Government-Issued COVID-19 Contact Tracing App on Psychological Distress During the Pandemic Among Employed Adults: Prospective Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JMIR Mental Health	6. 最初と最後の頁 e23699 ~ e23699
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/23699	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Kawakami Norito	4. 巻 74
2. 論文標題 Exposure to media and fear and worry about COVID 19	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 501 ~ 502
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13095	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Imamura Kotaro, Kawakami Norito	4. 巻 31
2. 論文標題 Deterioration in Mental Health Under Repeated COVID-19 Outbreaks Greatest in the Less Educated: A Cohort Study of Japanese Employees	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 93 ~ 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200499	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rugulies Reiner, Ando Emiko, Ayuso-Mateos Jose Luis, Bonafede Michela, Cabello Maria, Di Tecco Cristina, Dragano Nico, Durand-Moreau Quentin, Eguchi Hisashi, Gao Junling, Garde Anne H., Iavicoli Sergio, Ivanov Ivan D., Leppink Nancy, Madsen Ida E.H., Pega Frank, Tsuno Kanami, et al	4. 巻 125
2. 論文標題 WHO/ILO work-related burden of disease and injury: Protocol for systematic reviews of exposure to long working hours and of the effect of exposure to long working hours on depression	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Environment International	6. 最初と最後の頁 515 ~ 528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.envint.2018.11.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsuno Kanami, JSTRESS Group, Kawachi Ichiro, Inoue Akiomi, Nakai Saki, Tanigaki Takumi, Nagatomi Hikaru, Kawakami Norito	4. 巻 92
2. 論文標題 Long working hours and depressive symptoms: moderating effects of gender, socioeconomic status, and job resources	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Archives of Occupational and Environmental Health	6. 最初と最後の頁 661 ~ 672
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00420-019-01401-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imamura Kotaro, Tsutsumi Akizumi, Asai Yumi, Arima Hideaki, Ando Emiko, Inoue Akiomi, Inoue Reiko, Iwanaga Mai, Eguchi Hisashi, Otsuka Yasumasa, Kobayashi Yuka, Sakuraya Asuka, Sasaki Natsu, Tsuno Kanami, Hino Ayako, Watanabe Kazuhiro, Shimazu Akihito, Kawakami Norito	4. 巻 9
2. 論文標題 Association between psychosocial factors at work and health outcomes after retirement: a protocol for a systematic review and meta-analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e030773 ~ e030773
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2019-030773	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kim Yongjoo, Zaito Masayoshi, Tsuno Kanami, Li Xiaoyu, Lee Sunmin, Jang Soong-nang, Kawachi Ichiro	4. 巻 62
2. 論文標題 Occupational Differences in C-Reactive Protein Among Working-Age Adults in South Korea	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Occupational & Environmental Medicine	6. 最初と最後の頁 194 ~ 201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/JOM.0000000000001781	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Iida Mako, Watanabe Kazuhiro, Ando Emiko, Tsuno Kanami, Inoue Akiomi, Kurioka Sumiko, Kawakami Norito	4. 巻 62
2. 論文標題 The Association Between Unit-Level Workplace Social Capital and Intention to Leave Among Employees in Health Care Settings: A Cross-Sectional Multilevel Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Occupational & Environmental Medicine	6. 最初と最後の頁 e186 ~ e191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/JOM.0000000000001847	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuno Kanami	4. 巻 10
2. 論文標題 Do personal resilience, coping styles, and social support prevent future psychological distress when experiencing workplace bullying? Evidence from a 1-year prospective study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Psychology	6. 最初と最後の頁 310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40359-022-00991-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuno Kanami, Tabuchi Takahiro	4. 巻 12
2. 論文標題 Risk factors for workplace bullying, severe psychological distress and suicidal ideation during the COVID-19 pandemic among the general working population in Japan: a large-scale cross-sectional study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e059860 ~ e059860
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2021-059860	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuno Kanami, Kawakami Norito, Tsutsumi Akizumi, Shimazu Akihito, Inoue Akiomi, Odagiri Yuko, Shimomitsu Teruichi	4. 巻 17
2. 論文標題 Victimization and witnessing of workplace bullying and physician-diagnosed physical and mental health and organizational outcomes: A cross-sectional study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0265863
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0265863	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Natsu, Kuroda Reiko, Tsuno Kanami, Imamura Kotaro, Kawakami Norito	4. 巻 64
2. 論文標題 The effect of job strain and worksite social support on reported adverse reactions of COVID 19 vaccine: A prospective study of employees in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 e12356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/1348-9585.12356	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawaguchi Emiko, Nakamura Sho, Watanabe Kaname, Tsuno Kanami, Ikegami Hiromi, Shinmura Naoko, Saito Yoshinobu, Narimatsu Hiroto	4. 巻 10
2. 論文標題 COVID-19-related stigma and its relationship with mental wellbeing: A cross-sectional analysis of a cohort study in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Public Health	6. 最初と最後の頁 1010720
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpubh.2022.1010720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAITO Mitsunobu, TOKUNO Shinichi, TSUNO Kanami	4. 巻 Online ahead of print
2. 論文標題 The relationship between performance feedback from supervisors and subordinates' work engagement among employees in elderly care facilities: structural equation modeling	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Industrial Health	6. 最初と最後の頁 367 ~ 379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2486/indhealth.2022-0082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津野香奈美	4. 巻 120
2. 論文標題 研究者の視点から見たパワハラ防止対策 確立されたエビデンスを利用しながら職員が心身ともに健康で働ける環境をつくろう	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地方公務員安全と健康フォーラム	6. 最初と最後の頁 9-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津野香奈美	4. 巻 12
2. 論文標題 パワハラを目撃と心身の健康および労働生産性との関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 へるすあっぷ21	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津野香奈美	4. 巻 402
2. 論文標題 レイシャル・ハラスメントの理解と対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 産業カウンセリング	6. 最初と最後の頁 18-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津野香奈美	4. 巻 16202
2. 論文標題 変化するハラスメントとその対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 安全と健康	6. 最初と最後の頁 1 - 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 コロナ禍の労働者のメンタルヘルス
3. 学会等名 第6回労働時間日本学会研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 会社としてどう対応すべきだったのか&企業に求められているパワハラ対策
3. 学会等名 第29回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kanami Tsuno, Midori Shimura, Izumi Inao, Tomoko Nishimoto, Yasuko Okada
2. 発表標題 The costs of workplace bullying in Japan
3. 学会等名 12th International Conference on Workplace Bullying and Harassment (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 津野香奈美, 田淵貴大
2. 発表標題 COVID-19流行下における職場のハラスメント経験とメンタルヘルスとの関連
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎, 川上憲人
2. 発表標題 COVID-19流行下での医療従事者と一般労働者のメンタルヘルスの推移: オンラインコホート調査 (E-COCO-J) より
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田真子, 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎, 川上憲人
2. 発表標題 医療福祉職と一般労働者における新型コロナウイルス感染症関連ハラスメント頻度の推移
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kanami Tsuno, Masahiro Yamamoto, Asami Tsuji
2. 発表標題 Workplace incivility and medical errors in Japan
3. 学会等名 16th International Congress of Behavioural Medicine (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuhiro Watanabe, Norito Kawakami, Kanami Tsuno
2. 発表標題 Detecting workplace bullying from demographics, health/occupational outcomes, and psychosocial factors at work: a cross-sectional study applying machine learning
3. 学会等名 16th International Congress of Behavioural Medicine (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳沼梢, 笠原賀子, 津野香奈美, 吉益光一, 龍田希, 仲井邦彦
2. 発表標題 管理栄養士・栄養士の努力 - 報酬不均衡と心理的ストレス反応の関係
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kanami Tsuno, Takahiro Tabuchi
2. 発表標題 Association between workplace bullying and mental health in the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 The 33rd International Congress on Occupational Health (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sayaka Ogawa, Haruka Tomonaga, Natsu Sasaki, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Kotaro Imamura, Norito Kawakami
2. 発表標題 Online occupational health consultations in the COVID-19 pandemic: experience, user satisfaction, and difficulties from a nationwide cross-sectional online survey of workers in Japan
3. 学会等名 The 33rd International Congress on Occupational Health (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Norito Kawakami, Natsu Sasaki, Hiroki Asaoka, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Kotaro Imamura
2. 発表標題 Employees' worry about workplace measures against COVID-19 and the onset of major depressive episode: A 13-month prospective study of full-time employees
3. 学会等名 The 33rd International Congress on Occupational Health (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Natsu Sasaki, Kotaro Imamura, Kyosuke Nozawa, Hajime Takeno, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Akizumi Tsutsumi, Norito Kawakami
2. 発表標題 Working from home or going to the office: mental health and its associated psychosocial factors at work from 9-month prospective study in the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 The 33rd International Congress on Occupational Health (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mako Iida, Natsu Sasaki, Kotaro Imamura, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Norito Kawakami
2. 発表標題 COVID-19-related workplace bullying and customer harassment among healthcare workers over the time during the COVID-19 outbreak: A eight-month panel study of full-time employees in Japan
3. 学会等名 The 33rd International Congress on Occupational Health (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎, 川上憲人
2. 発表標題 仕事のストレス要因および職場の支援は新型コロナウイルス感染症ワクチンの副反応に影響を与えるか：前向きコホート研究
3. 学会等名 第29回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 職場のハラスメントをめぐる最新の動向
3. 学会等名 第28回日本産業ストレス学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 職場におけるハラスメント防止対策～研究者の立場から～
3. 学会等名 日本産業衛生学会関東地方会第292回例会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 これからのパワハラ対策ーパワハラ的一次予防、二次予防、三次予防ー
3. 学会等名 第27回日本産業精神保健学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 津野香奈美，川上憲人，堤明純，島津明人，井上彰臣，吉川徹，小田切優子，下光輝一
2. 発表標題 職場のハラスメントの経済損失：疾病休業・労働生産性・離職の観点から
3. 学会等名 第93回日本産業衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川上憲人，佐々木那津，黒田玲子，津野香奈美，今村幸太郎
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による通勤・在宅勤務の変化とそのメンタルヘルスへの影響：オンライン労働者コホート研究
3. 学会等名 第36回日本ストレス学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯田真子，佐々木那津，黒田玲子，津野香奈美，川上憲人
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症に関連した職場のハラスメントの頻度と関連要因の検討：労働者コホート研究
3. 学会等名 第28回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 川上憲人
2. 発表標題 企業における新型コロナウイルス感染症対策が従業員のメンタルヘルスと仕事のパフォーマンスに与える影響
3. 学会等名 第28回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川上憲人, 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染拡大下のテレワーク勤務者におけるオンラインコミュニケーションと職場の支援および心理的ストレス反応
3. 学会等名 第28回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津野香奈美, 島津明人, 島田恭子, 安藤絵美子, 井上彰臣, 栗岡住子, 川上憲人
2. 発表標題 職場の尊重度(シビリティ)尺度日本語版の信頼性・妥当性検証と属性別得点比較
3. 学会等名 第92回日本産業衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津野香奈美, 山本眞弘, 梅本秀俊, 辻あさみ
2. 発表標題 職場のインシビリティ(礼節の欠如)と抑うつ症状との関連: 前向きコホート研究
3. 学会等名 第27回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津野香奈美, 大塚泰正, 藤桂, 松高由佳, 飯田順子, 堀口康太, 島田恭子, 遠藤寛子
2. 発表標題 LGBT等の性的マイノリティ労働者における暴力の経験と精神的健康状態
3. 学会等名 第26回日本行動医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津野香奈美, 山本真弘, 辻あさみ
2. 発表標題 職場における礼節の欠如は1年後の抑うつ症状と関連する：某大学法人における前向きコホート研究
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳沼梢, 津野香奈美, 吉益光一, 佐野裕子, 前田有秀, 仲井邦彦
2. 発表標題 保育者のストレス状況に関する横断調査
3. 学会等名 第90回日本衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津野香奈美, 井上彰臣, 島津明, 堤明純, 小田切優子, 下光輝一, 川上憲人
2. 発表標題 パワハラ被害・目撃と精神・身体疾患、疾病休暇、労働生産性との関連：全国代表サンプル
3. 学会等名 第95回日本産業衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 職場における礼節の欠如と1年後の抑うつ症状との関連：大学法人における前向きコホート研究
3. 学会等名 神奈川県立保健福祉大学研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 過労死を防止するために 研究者の視点から
3. 学会等名 労働時間日本学会第7回研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津野香奈美, 野口詩織, 田淵貴大
2. 発表標題 日本社会で誰が好意的性差別をしているのか：JACSIS研究
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 櫻谷あすか, 今村幸太郎, 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 川上憲人
2. 発表標題 メタバース勤務と心の健康および仕事のパフォーマンスとの関連の検討：横断研究
3. 学会等名 第30回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤光伸, 徳野慎一, 津野香奈美
2. 発表標題 介護施設従業員における上司からのパフォーマンス・フィードバックとワーク・エンゲイジメントとの関連：構造方程式モデリング
3. 学会等名 第30回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津野香奈美, 山本真弘, 辻あさみ
2. 発表標題 労働時間や睡眠時間と他者に対する無礼な態度との関連：前向きコホート研究
3. 学会等名 第29回日本行動医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津野香奈美
2. 発表標題 ジェンダーや好意的性差別が働く女性の健康とキャリア選択に与える影響
3. 学会等名 第34回日本発達心理学会大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳沼梢, 津野香奈美, 吉益光一, 齋藤長徳, 笠原賀子, 龍田希, 仲井邦彦
2. 発表標題 管理栄養士・栄養士のワーク・エンゲイジメント
3. 学会等名 第93回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 医療情報科学研究所（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 株式会社メディックメディア	5. 総ページ数 328
3. 書名 職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営	

1. 著者名 津野 香奈美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 パワハラ上司を科学する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------